

犬山市の河川・用水の変遷

平成28年3月

犬山市教育委員会歴史まちづくり課

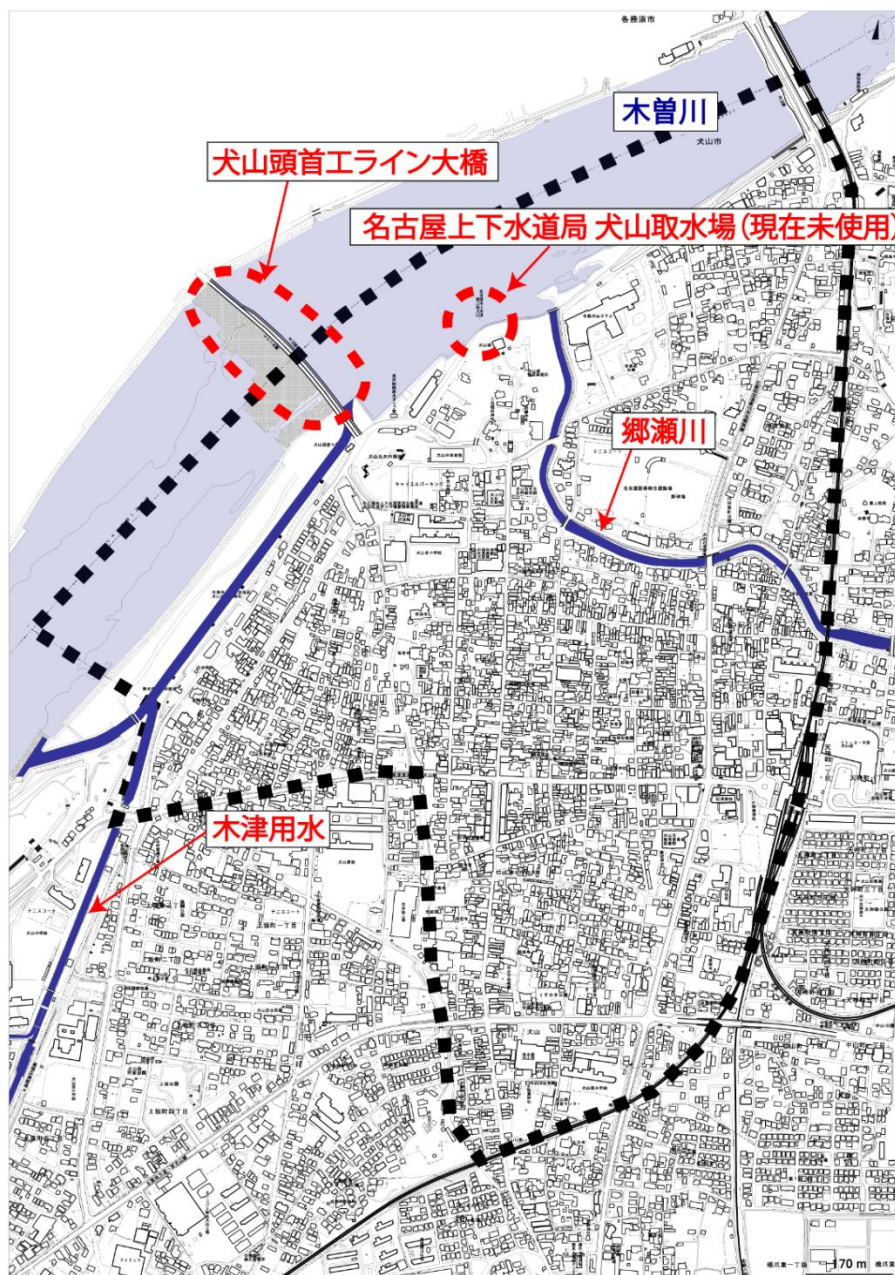
■ 調査目的

『犬山市歴史的風致維持向上計画』の中で重点区域に位置づけている犬山城下町地区に所在する河川・用水について、これまでどのような経緯でそこに造られ現在に至っているのかについて調査を実施してこなかった。そのため、今回、現在の城下町の周辺環境を形づくるに至った経緯について明らかにすることを目的として、河川・用水の整備記録について文献等から調査を行った。

■ 調査結果

文献等の調査を行った結果、木曾川の水を県内外に配水するために、周辺環境に影響を与えるような工事が何度も行われてきたことがわかった。その結果を以下に示す。

● 城下町重点区域における河川・用水の位置図



■ 城下町周辺における河川・用水の変遷

● 慶長14年(1609)：御囲堤の築造

幾多に分かれていた木曾川の流路を固定することや洪水被害を軽減することなどを目的に、徳川家康の命令を受けた伊奈流初代川普請である伊奈忠次により、木曾川の左岸側に「御囲堤」と称する約50kmの堤防を慶長14年(1609)に築造した。

● 慶安3年(1650)：木津用水の開削

寛永10年(1633)、尾張平野東部の台地開発を目的として築造された入鹿池により、楽田村や羽黒村などでは新田開発が進んだ。しかし、夏に日照りの日が続くと入鹿池の水が不足し、小牧より先の広い範囲に水を送ることが困難になることがたびたび起こるようになった。

小牧より先の広い範囲にも水の安定供給を行うため、入鹿池築造に貢献した江崎前左衛門ら5名が中心となり、犬山城下の西にあった木津村に枅を築くことで、水源である木曾川より引水し、五条川と交差し南下する水路の築造に着手した。

慶安3年(1650)に完成したこの水路は、枅の設置場所から「木津用水」と呼ばれるようになった。

● 明治19年(1886)：郷瀬川の付け替え工事

郷瀬川は、当時、尾張・美濃両国境にある黒平・内津・栗栖の各山地を水源とし、善師野に入り西流し、富岡を通過して犬山に向かい、橋爪、五郎丸の東側を南下して高雄に流下していた。郷瀬川は悪水で、大雨の時は必ず水害を起こす水流であったが、犬山の各村においては大切な灌漑水路であった。入鹿池築造後は、入鹿用水をはじめ、田口川、杉川を合流し、合瀬川を流入させた。

大雨のたびに、洪水が起こり富岡の西で破堤したため、郷瀬川の流路を木曾川に導く計画が立てられ、明治19年(1886)に郷瀬川は犬山城の麓から木曾川に流れ込む流路に付け替えられた。

● 大正3年(1914)：名古屋上・下水道 犬山取水場の築造

明治22年(1889)の市制施行によって人口が急増した名古屋市では、生活用水として使っていた井戸水が不足し始め、頻発する火災によって水不足に陥っていった。さらに、明治24年(1901)10月28日に発生した濃尾地震も重なり、名古屋市の水不足は深刻化した。濃尾地震から復興するにあたっては、水不足も解消できるよう上・下水道の布設について検討が行われた。

明治35年(1902)には、名古屋市の嘱託技師であった上田敏郎によって、上・下水道創設工事に関する調査が行われた。翌36年に作成された調査報告書では、木曾川を水源とし、犬山で取水した水をポンプで愛知郡東山村大字田代町(現在の名古屋市千種区田代町)まで送る計画が示された。

明治39年(1906)の名古屋市議会において、上田敏郎の計画に基づく上下水道の建設議案が可決されたことを受け、取水部の工事が明治44年(1911)に着工、大正3年(1914)に完工したことを受けて、名古屋市水道は同年9月より給水を開始した。

● 昭和37年(1962): 犬山頭首工の築造

昭和になると、木曾川に流れ込む郷瀬川の水質汚染や木曾川本流の水深や流心が変化したことによって、名古屋上・下水道の取水口は使われなくなり、昭和8年(1933)に水質汚染や流心の変化が少ない、犬山橋上流およそ600メートル地点に新たな取水口が築造され、取水機能が移転した。

宮田、木津、羽島の各用水が使用していた取水口も名古屋上下水道の取水口と同様に、木曾川本流の水深や流心の変化による影響を受け、取水が著しく困難な状況になっていた。

戦後の昭和26年(1951)、国は、かねてより続いていた水不足の解消を求める地元農民の陳情を受けて、水不足を解消するため、犬山城の下流に近代的施設を持った取水ダムを建設し、左岸に木津、宮田の取水口を合併した取水口、右岸に羽島の取水口を設置する大規模事業計画を打ち立てた。

昭和33年(1957)、犬山頭首工の建設と各幹線水路の改修を図る国営濃尾用水農業水利事業がスタート。4年後の昭和37年7月(1961)に犬山頭首工の竣工式が行われ、ライン大橋において渡り初めの儀が執り行われた。同年10月には木津用水元杵の解体作業が始まり、昭和38年4月には、濃尾用水左岸幹線水路の木津・宮田両用水の取水口が竣工した。

昭和39年(1963)に3用水の通水が行われ、昭和42年(1967)をもって各用水の改修工事が完了し、濃尾用水農業水利事業が完結した。

● 出典

『入鹿池史』(1994、入鹿用水土地改良区)

『木津用水史』(1975、木津用水土地改良区事務所)

『犬山市史 通史編上』(1997、犬山市)

『犬山市史 通史編下』(1995、犬山市)

『犬山市史 史料編六 近代 現代』(1995、犬山市)

『一級河川 木曾川水系 郷瀬川圏域 河川整備計画』(2009、愛知県)

『KISSO』(1994、建設省中部地方建設局木曾川下流工事事務所)

『名古屋市下水道事業百年史』(2012、名古屋市上下水道局)

『名古屋市水道百年史』(2015、名古屋市上下水道局)

● 参考

『濃尾用水の歴史(濃尾用水拾捨話)』(東海農政局 HP 内)

(http://www.maff.go.jp/tokai/seibi/kensetu/sinnoubi/pages/17zyuu_yowa/00.html)

● 映像資料

『濃尾用水第1部』(東海農政局濃尾用水協議会 監修)

『濃尾用水第2部』(東海農政局濃尾用水協議会 監修)

■地図等で見える各年代における河川・用水の変遷図



江戸時代後期の地形図 出典『宮田用水史』



昭和5年の地形図*



昭和45年の地形図*



現在の地形図*

※出典『一級河川 木曽川水系郷瀬川圏域 河川改修計画』